

## Ⅹ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

### 1. 主要施策の取組状況

#### (1) 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

##### ① 民間企業との連携による自然再生プロジェクトの推進

県とサントリーホールディングスが協定に基づき実施しているサントリー「天然水の森丹沢」自然再生プロジェクトの実施にあたり、植生保護柵の設置や人工林の混交林化、モニタリング（動植物調査、土壌調査）など具体的な取組をまとめた5ヶ年計画を作成した。

##### ② 重点団体等との協働による自然再生の取組の推進

自然環境保全センターでは将来にわたって県民との連携・協働により丹沢大山の自然再生を進めている自然再生委員会や団体、大学、企業等と連携して各種事業に取り組むモデル地域を令和6年に設定した。

丹沢大山に係る自然再生の取組みについて普及啓発を図るため、自然環境保全センターは丹沢大山自然再生委員会（以下「自然再生委員会」という）の事務局として、各団体が開催するイベントに対して協力や支援を行った。

#### ○主な普及啓発活動取り組み実施状況

活動名称	開催日・場所	内容	参加者数
令和6年度第一回 丹沢フォーラム 「森の学校大人編」	令和6年 5月11日から5月12日 三ノ塔から札掛周辺	震災100年丹沢地震以降の治山事業。林道や溪流で、森と生き物との繋がりを知る	38人
令和6年度第二回 丹沢フォーラム	令和6年10月26日 菩提峠から三ノ塔	植栽地を訪ね、活動を振り返りながら、森の再生を検証する。	92人
コリドー（緑の回廊）植樹	春：令和6年4月20日 丹沢菩提峠 秋：令和6年10月27日 丹沢菩提峠	多様な生命を育む森林の再生を図るため、市民ボランティアの方で丹沢の自然環境保全を推進する	春 211人 秋 160人
秦野丹沢まつり	令和6年4月21日 県立秦野戸川公園	自然再生の取組や委員会の活動紹介。	-
ワールドフェスタ・ヨコハマ2024	令和6年10月12～13日 横浜市山下公園	丹沢大山自然再生活動紹介動画上映、パネル・はく製他展示	415人
森林霜訪	令和6年11月30日 日向薬師～日向山	日向薬師から日向山・広沢寺温泉へ	41人
丹沢大山自然再生活動報告会	令和7年1月25日 秦野市保健福祉センター	「水源地域の森と水をつなぐ里」～丹沢の里山再生を考える 第一部：活動報告 第二部：シンポジウム	151人

### ③学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

県高校体育連盟が主催する「夏山情報交換会」「新人登山大会」に合わせて、登山部に所属する生徒を対象に自然再生の取組を紹介した。

自然環境保全センターは、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関や、民間団体等からの依頼を受け、施設内や自然再生事業地の視察の受入れや研修等を実施し、丹沢地域及び横浜等の都市部の教育機関への普及啓発を図った。

環境学習活動を通じた自然再生の担い手づくりを推進するため、自然再生委員会を通じ、次の活動に協力した。

「森の学校」 NPO 法人丹沢自然保護協会主催

「森林環境教育」 NPO 法人かながわ森林インストラクターの会主催



令和7年1月・新人登山大会(秦野市)



NPO 法人丹沢自然保護協会  
令和6年8月 森の学校(清川村)

#### ○環境学習の推進活動

活動名称	開催日・場所	内容	来場者数
神奈川県高等学校 夏山新人登山大会 におけるレクチャー	令和6年7月17日 藤沢翔陵高等学校	オーバーユースや登山者数実測調査、登山道補修についての講義。	約50人
神奈川県高等学校 新人登山大会 におけるレクチャー	令和7年1月25日 秦野市の滝沢園キャンプ場	丹沢大山自然再生への取り組み講義（登山道オーバーユース対策など）	約170人
森の学校	夏：令和6年8月14～15日 冬：令和6年12月27～29日 春：令和7年3月28～4月2日 すべて札掛・丹沢ホームを拠点として実施	子ども達が自然の中で生活し、野生動物の生態や役割を学ぶことで自然の仕組みを知り、また動物や植物の生活史を通して、人間と丹沢の自然環境の関わりを学んだ。	夏 37人 冬 32人 春 30人
森林環境教育	令和6年10月7日 松田町・やどりき水源林	将来の丹沢の自然環境保全・再生を担う人材を育成するため、県内の小学生を対象に現地見学を実施し、丹沢の自然に親しんでもらいながら、自然環境に対する理解を深めた。	5人

### ④モデル流域によるモミ等自然林の再生

Ⅱ-(1)③に記載のとおり。

## (2) 県民協働の枠組みを通じた連携

### ①重点丹沢大山クリーンピア 21、丹沢の緑を育む集い等による連携・協力

丹沢大山クリーンピア 21※によるクリーンキャンペーン〔参加団体：43 団体、参加者：4,908 人、ゴミ収集量：7,226kg〕を行った。

丹沢の緑を育む集いにより、植樹（菩提峠周辺）〔参加者：春 211 人、秋 160 人〕を行った。

丹沢大山ボランティアネットワークにおける採水調査等の協働事業への参加・協力をを行った。

※ 丹沢大山クリーンピア21 丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミの持ち帰り運動を推進することを目的として、企業・各種団体及び行政機関等の協力のもと設立された。

## (3) 協働・普及啓発の拠点の活用

### ①自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

自然環境保全センターは、横浜等の都市部を含む県全域の学校等の教育機関や、団体等からの依頼を受け、施設内や自然再生事業地の視察の受入れや研修等を実施することで普及啓発を図った。

自然環境保全センター野外施設を活用し、野生動物救護の会が実施する調査研究「電気柵で隔てられた 2 つのエリアに生息する野生動物の痕跡調査と自動撮影カメラを用いた観察」に協力した。

フィールドスタッフ（自然保護と自然体験の指導者）を育成するため、養成講座を実施するとともに身に着けた知識や技術を発揮する活動実践の場としてのミニ観察会等を開催した。

本館 2 階のブナの森ギャラリーにおいて自然再生に関するパネル等を展示する「企画展」を開催し、丹沢の自然や歴史、文化等に関する普及啓発を図った。

〔自然環境保全センター利用者数：18,212 人〕

○令和 6 年度にブナの森ギャラリーで開催した企画展

開催期間	テーマ
4 月～6 月	神奈川県で保護された野鳥の羽根標本と傷病鳥獣の救護実績から見えてくる主な保護原因について
7 月～8 月	農業農村の多面的機能及び侵略的外来動植物の生態等について
9 月～10 月	丹沢大山の四季
11 月～12 月	クリハラリスの分布拡大を止めるために
令和 7 年 1 月～3 月	令和 6 年度緑化運動・育樹運動コンクール受賞作品展

本館の図書室では、丹沢資料保存会から寄贈された図書を展示し、丹沢大山自然再生への取り組みや歴史を紹介した。また、丹沢資料保存会から寄贈された図書を活用し、「小島鳥水と山々（後編）」というテーマで特集棚を設置した。

## ②神奈川県立ビジターセンター等との連携による自然再生活動の推進

VIII-(2)-②に記載の通り。

### (4) 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

#### ① ツイッター（現X）やHPを活用した自然再生情報の蓄積と発信

丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)を活用し、自然再生プロジェクトの活動レポートや第1期自然再生計画以降の実施報告書を取りまとめて掲載するなど、自然再生の取組みについて最新の情報を発信した。

令和2年度より自然環境保全センター独自のツイッター（現X）アカウントを取得し、自然環境保全センターの野外施設や、丹沢を中心とした山の情報、自然再生への取り組み等の照会などの情報を発信している。令和6年度一年間のツイート数は112、令和6年度末時点での総フォロワー数は3,522だった。

#### ○令和6年度に大きな反響があったポスト上位3つ

ポスト日	内容	いいね数	表示数
令和6年7月23日	ヤマビルの対処に冷感拭きシートを使用	24,400	1,320,000
令和7年2月26日	在来植物の自然侵入を促すことによる法面の緑化	3,075	210,000
令和6年5月30日	ヤビツ峠公衆トイレリニューアル	1,814	120,000

#### ② 自然再生委員会との協働による自然再生事業の検証

丹沢の自然再生の取組やモニタリング調査の結果を実施報告書として取りまとめ、自然再生委員会との協働により科学的根拠に基づく評価について検討した。

